P01

うきは市における乳幼児歯科健診事業の評価

○廣田和子、　長田恵美 *

廣田歯科医院（うきは市）、* 鹿児島大学医学部歯学部付属病院　発達系歯科センター　口腔保健科

【目的】福岡県うきは市では、市民の要望をふまえ、行政と話し合い、市内開業医に勤務する歯科衛生士の協力を得て、１歳６カ月時、２歳時、２歳６カ月時および３歳時の４回、フッ化物塗布を実施している。今回、フッ化物塗布の実施回数の違いで、ウ蝕罹患状況に差があるか否かを検討し、この事業の評価を行うことを目的とし調査した。

【対象と方法】平成１７年４月より平成２１年３月の間に、１歳６カ月児健診と３歳児健診の両方を受診した５７２名のうち、１歳６カ月時と３歳時の２回のフッ化物塗布を受けた群（以下Ａ群と称す）１７９名と、１歳６カ月時、２歳時、２歳６カ月時、３歳時の４回のフッ化物塗布を受けた群（以下Ｂ群と称す）２２２名を対象として、健診票を基にウ蝕罹患者率、一人平均ｄｆ歯数、ウ蝕罹患型について調査した。

【結果】Ａ群とＢ群を比較した結果、①ウ蝕罹患者率は、１歳６カ月児では有意差はなく、３歳児では有意差が認められた（Ｐ＜0.05 、Pearson のカイ２乗検定）。②一人平均ｄｆ歯数およびウ蝕罹患型についても、１歳６カ月児では有意差はなく、３歳児では有意差が認められた（Ｐ＜0.05 、Mann-WhitneyＵ検定）。

【考察】ウ蝕の発生や予防因子には種々の要因が考えられるので、有意差をもたらした要因については、さらに分析する必要があるが、健診以外に２度のフッ化物塗布に訪れた保護者のウ蝕予防に対する意識の違いと、フッ化物塗布時に行う歯科衛生士の簡単な指導が有意差につながっているのではないかと考えている。この結果を今後の健診事業に役立てたい。

P02

思春期の保健行動を向上させる指導法とその有効性について

○ 山本雅子, 楠田理奈, 岩男好恵, 柏木伸一郎
（小児歯科柏木医院）

【目的】第２６回小児歯科学会九州地方会で、思春期の患児に対する自己管理や定期健診の重要性を認識させるための指導法について報告した。質問表の問題点として、歯肉炎だけでなくう蝕や定期健診など質問項目が混在していたため、指導ポイントを絞ることが難しかった。また、歯肉炎に関して知っていると答えた患児が約２割と少なく、歯肉炎に対する日頃の指導不足が伺えた。そこで今回、これらを改善した質問表を使用し指導を行うと共に、その有効性をアンケート調査により検討したので報告する。

【対象及び方法】　対象は、低年齢から定期受診中の小学校５年生から中学校２年生までとした。改良版の質問表は形式としては前回と同じであるが、内容を歯肉炎に絞ると共に、より興味を持たせるため、歯に関するクイズからスタートすることとした。チャート式の質問表は、歯肉炎の知識の差によりＡ・Ｂ・Ｃの３段階に分類した。次に答えてもらう選択式は、歯磨きやセルフチェック・定期健診に関する１１項目である。これら改良版の質問表を患児に記入してもらい、それを基に歯科衛生士が指導を行った。

さらに今回、指導の有効性を評価するため、指導から３カ月後の定期健診来院時にアンケートを実施し検討した。アンケートの内容は、歯肉炎のセルフチェックが出来るかどうか、また指導内容を実行しているかどうか等である。

【結果及び考察】　今回改良した質問表を使用することで、前回にも増して患児に興味を持たせる事ができ、指導する際に患児とのコミュニケーションも円滑になった。アンケートの結果を見ても、歯肉炎に対する意識向上や保健行動の変化がみられ、思春期を対象にした質問表による指導が有効であったと考えられる。